

日時	2020年5月12日(火) (180分)
概要	オンライン鑑賞
	某企業の研修として
場所	オンライン
参加者	20名
鑑賞作品	小左誠一郎「UPO」 <u>2020</u> http://www.ykgallery.com/exhibitions/%e5%b0%8f%e5%b7%a6%e8%aa%a0%e4%b8%80%e9%83%8e-upo/



内容	詳細 *赤字は実行後の改良想定部分	時間	経過
準備	<p>以下のリンクを佐藤のインビテーションのテキストとともに実施2日前に送り、参加者に読んでおいてもらう。 https://note.com/yusatoweb/n/n588850695ac9</p> <p>準備物：・メモが取れるもの（紙とペン・メモアプリなど 各自使い慣れているツール）</p>		
あいさつ	<p>参加者の出席を確認し、通し番号をつけ、マイクのチェックを順番に行う。 チャットの見方の確認。 名前に番号をつけてもらう。スタッフに*印をつける。</p> <p>『鑑賞を「作品への個々の向き合い方」ととらえ、様々な方法を試すのが今回のプログラム。 ということ伝える。』</p>	5	
ウォーミングアップ①	<p>『体を使ってあそぶ 今回のワークは思考することが多いですが、 完全な思考モードに入る前に、体を動かして遊んでウォーミングアップをしておきます。</p> <p>テーマに沿った動きを自由にしてください。 最初のテーマは「雨」の動き→ ちょっと思い思いにやってみましょうか 全体の様子を見ながら、2人くらい、目立つ人の動きを全員で真似してやってみる。</p> <p>====</p> <p>今度は全員ギャラリー表示にしてもらう。 他の人の「雨」も観察しながら、画面全体で「雨模様」になる。</p> <p>今回はみんなで行うのが面白いので、自分自身の動きも大事ですが、 他の人の表現も見て、影響を受けたり、与えたりするのも面白いです。 他の人とは違う雨になったり、雨模様を変化させたりして楽しんでください。</p> <p>20秒 他者の表現も見ながら、もう一度やってみる</p>	5	10

では、次にこの雨に段階をつけます。
雨からだんだん状態を変化させてゆくの、みなさんアドリブについてきてください。

思う様にそれぞれ自由にやってください。
椅子から立ち上がったたり、画面の外を使ったり、部屋にあるものを使ったり、やり方は自由です。
人の真似でも、好きな動きでも構いません。

一見「雨」に見えない動きになってしまうかもしれませんが、気にせずいきましょう。

「そのものに自分になっているんだ！」という気持ちが大事です。
相手にどう見えるかはあまり考えない様に。

「降り始め→本降り→風邪→雷→嵐→川→海」の流れで表現を行う。
思い思いの表現ができていますか。

=====

では、次は具体的に「この海」になってもらう、
ある絵の画像をチャットにリンクで送るので、
その海になることを考えながら、観察してもらいます。

https://static.wixstatic.com/media/dd851d_ad03c247dab14a7ca44090e1474aa345~mv2.jpg

チャットに以下の画像リンクを送る。

ウォーミングアップ②



では、1分間黙って観察しながら、
絵の「どの部分」を、「どんなふう」に表そうか、イメージしてください。

イメージできたら、全員で30秒で表現したいと思います。
1分は意外と長いので、周りの表現を見ながら、表現をいろいろ変化させると良いと思います。
では全員でやってみましょう。

佐藤+スタッフ（保険） 画面録画で録画する。スタッフ佐藤はビデオオフ。
MACであれば、COMMAND+SHIFT+5

=====

佐藤（スタッフ）が録画したものを画面共有して、みんなでみてる。
佐藤が総括する。

10 20

鑑賞の心構え	<p>本格的な鑑賞に入る前に、心構えを伝える。 https://note.com/yusatoweb/n/n588850695ac9</p> <p>リンクの内容を短くまとめておさらいする。</p> <p>「目的」を持つと、集中力が切れにくい。 「目的」＝絵についてのことでも良いが、自分についてのことでも良い。 「わからない状態」＝思考が深まり、跳躍するチャンス。注目すべきポイント、目的になりうる。 振り子の様に体と心を動かして、「気づき」にアプローチする。</p>	10	30
鑑賞	<p>ある作家の3つの作品を鑑賞することを伝える。</p> <p>小左誠一郎「UPO」2020 http://www.ykggallery.com/exhibitions/%e5%b0%8f%e5%b7%a6%e8%aa%a0%e4%b8%80%e9%83%8e-upo/</p> <p>＊画像は一時的に佐藤のWEBページに掲載されており、リンクを開くことで各自が閲覧できる。 ホストがチャットに1作ずつ作品のリンクアドレスを送る。開けない人は画面共有でホストの画面を見る。</p> <p>1作につき、約5分黙って絵をよく見る。 絵について感じたことを後にそれぞれに発表してもらうので、必要な人はメモなどを取る。 これを3枚の絵で繰り返す。</p> <p>=====</p> <p>問いを立てる：5分 各自3枚の絵を自由に鑑賞し、これまでの考えを整理して、「問い」を1つ立てる。問いを立てる：https://dd851dab-555d-4c41-bbe5-c3c608de5893.usrfiles.com/ugd/dd851d_0750e4b90b9e4f3e888e1637f7bf0523.pdf</p> <p>「問い」とは、鑑賞をもう一步進めるのきっかけとなる、「明らかにさせたいこと・知りたいこと」。</p> <p>「疑問」や、「考えの行き詰まり」など、 「わからないこと」に興味を持った人は、それを「問い」としても良い。 例) ・なぜこの絵を書いたのか? ・何が描かれているのか?</p> <p>「気づき」や「発見」など、鑑賞の中で「わかったこと」に興味を持った人は、自分がなぜそう感じたのかを「問い」にするのも良い。 例) ・とても心地よく感じている自分に気づいた= 「なぜ心地よさを感じたのか?」 ・初めは〇〇だと感じたが、後に△△だと感じた= 「なぜ感じ方が変わったのか?」 など</p> <p>この後は立てた「問い」に沿ってプログラムを進めてゆく。</p>	20	50

休憩		5	55
対話	<p>個人番号の順で、2人組 (+スタッフ1名?) のブレイクアウトルームに分かれる。 *スタッフは、各ブレイクアウトルームに入り、対話を録画する。</p> <p>*以下の内容のレジメをリンクとして送り、手元で確認させて読み合わせる。 対話について：https://dd851dab-555d-4c41-bbe5-c3c608de5893.usrfiles.com/ugd/dd851d_a46abff4618040c59e8f9510809e5423.pdf</p> <p>ペアは「聞き手」「話し手」に分かれる。 奇数が話し手、偶数が聞き手。 「話し手」＝絵を見た感想や立てた問いについて話す役割。 「聞き手」＝自分の意見を言わず、質問で「話し手」の感想・「問い」などを聞き出す。 「スタッフ」＝2人の対話を聞きつつ、総括として対話の所感について話す。 *良い対話になる様に、ファシリテーター、調整役を担う。 また、参加者がワークの流れをよくわかっていない場合に説明をする。</p> <p>「聞き手」基本の3質問 (VTSの基礎を学ぶ) ・何が起きていますか？ (何が表現されているのか) ・なぜそう思ったんですか？ (感想の根拠) ・他に発見はありますか？ (展開)</p> <p>オリジナルの質問もOK。 質問に対して回答が2：8程度の割合になるように。YES・NOで答える質問をなるべくしないように。 相槌や復唱を意識する。</p> <p>画面共有の使い方をレクチャーしておく。</p> <p>8～10分で一度メインセッションへ戻る。</p> <p>①「話し手」「聞き手」が対話。「スタッフ」はミュート、タイムキーパー。 8～10分 ②「話し手」「聞き手」が役割を交代し対話。「スタッフ」はミュート、タイムキーパー。 8～10分 ③「スタッフ」対話について、感じたことを伝える。 3～5分 一方が話しすぎていないか、適切な質問だったのか、よい問いかけがあれば「いいね」と伝える。 相槌や、聞く態度なども評価する。 基本は8褒めて、2指摘くらいの割合。 他の2人はよく話を聞いて、次の対話に活かす。</p>	40	95

<p>ステートメントを読む</p>	<p>作品に付随する情報について。 ギャラリーのページのリンクを全員に送り、作家のステートメントを読む。</p> <p>参照：http://www.ykgallery.com/exhibitions/%e5%b0%8f%e5%b7%a6%e8%aa%a0%e4%b8%80%e9%83%8e-upo/</p> <p>普段は読み飛ばしてしましう、頭に入ってこない、ことも多いかもしれません。いまは、ノーヒントで鑑賞をしてきて、作品の情報を求めている状態かと思いません。</p> <p>自分が求めている状態で、ステートメントと向かうと、何か普段とは違うものが見えてくるかもしれません。</p> <p>ページをよく読んで、自身の問いを深めてみる。 5分</p>	<p>10</p>	<p>105</p>
<p>体で表してみる</p>	<p>先ほどは絵に関わる「言葉」を提示しましたが、今度は、もっと抽象的な感覚で、絵に迫りたいと思います。</p> <p>3枚をもう一度見てもらい、最も気になるものを1つ選ぶ。1分間</p> <p>ウォーミングアップを参考に、絵画を体で表してみる。 ロジックではない解釈が、問いを深めるかもしれない。</p> <p>表現するものは、「形そのもの」でも良いが、「自分が鑑賞で感じたこと・かんがえたこと」をテーマにするとより面白いものになると思う。</p> <p>絵の見た目と表現のズレがある方が、見ている人は想像の余地があって楽しいと思う。</p> <p>見栄えよりも、自分自身が自分の表現に自信を持つ、ある意味無責任になるくらいが重要。</p> <p>表す時間は20秒。</p> <p>まず、画像を再度観察し、1分でどんな動きにするのかをイメージする。 全員で20秒。一斉にやってみる。</p> <p>2人組のペアで、お互いどの作品を選んだのかを互いに確認させる。 奇数チーム、偶数チームで、半数ずつ20秒、表現を再び行ってもらい、自分のペアの動きを観察する。 そして解釈を試みる。</p>	<p>10</p>	<p>115</p>
<p>休憩</p>		<p>5</p>	<p>120</p>

制作	<p>ここまでの経験を題材に、「3つの言葉で作られた短文」を最終成果として制作します。</p> <p>以下のリンクをチャットに送り、読み合わせをおこなう。 制作：https://dd851dab-555d-4c41-bbe5-c3c608de5893.usrfiles.com/ugd/dd851d_8cd1217a14f54d769bffb8ac4306da.pdf</p> <p>「3つの言葉で作られた短文」は、 「努力 友情 勝利」のように、3つの単語を連ねたものであったり、 「私は ご飯を 食べた」のような、短い文章でも構いません。 また、「とても長い道 後ろを見ながら 歩く」のように、 少し長めの言葉を「1つ」として数えても構いません。 *短文の長さは3文字以上、20文字以内とします。</p> <p>これまでの鑑賞で得た「気づきや発見」「問い」「作者の言葉」「他者の言葉や表現」 などを用いて制作してください。</p> <p>短文作品だけで完結するというより、作品や鑑賞体験とセットになって、 誰かの鑑賞をより豊かにするきっかけになるものとして考えます。</p> <p>作品制作を行う上で、再び「鑑賞」に戻っても良いでしょう。</p>	15	135
成果発表	<p>ペアに分かれ、先ほどと同様の対話方式で、 制作した作品について、制作の意図など お互い対話する。</p> <p>①「話し手」「聞き手」が対話。「スタッフ」はミュート、タイムキーパー。 8～10分 ②「話し手」「聞き手」が役割を交代し対話。「スタッフ」はミュート、タイムキーパー。 8～10分 ③「スタッフ」対話、制作について、感じたことを伝える。 行いを肯定する。総括的な所感を伝える。 3～5分</p> <p>一回ごとに一度メインセッションに戻る。</p>	30	165
総括	<p>各自、成果物をチャットに書き込む。</p> <p>チャットをざっとさらいながら、ホストがWSを総括する。</p>	10	175

